

第6章 おわりに — 成果と課題 —

1 研究のまとめ

(1) 研究の概略

第15期中央教育審議会第一次答申が、これからの教育がはぐくむべき資質・能力としての「生きる力」を提唱してから2年半が経ちました。この間、「生きる力」の捉え方やその育成の方法について、様々な議論がなされ、多くの刊行物が出されています。

このような中で企画した本研究では、その1年次として

- ・これからの時代に必要とされる「生きる力」とは、具体的にはどのような資質や能力をさすのかを明らかにし、同時に今求められている「心の教育」との関連について考察すること
- ・これらの資質に関して、本府の児童生徒の現状について調査・分析し、各校種別に課題を明らかにすること
- ・児童生徒の発達段階を念頭におき、「豊かな心を基盤とした生きる力」をはぐくむための指導の在り方や活動例について検討すること

を中心的なねらいとして、研究を行いました。

研究の進め方として、まず、「生きる力」についての理論的な研究を行いました。そしてその中で、「生きる力」には「心の教育」において求められている資質や能力と共通するものが含まれていることを明らかにし、私たちが求める「生きる力」を「豊かな心を基盤とした生きる力」と捉えなおすこととしました。次に、府内の小学校、中学校、高等学校に協力をいただき、「生きる力」に係るアンケートによる調査を実施しました。この調査によって、子どもたちが自分自身をどのように見ているか、また、教師が子どもたちをどのように捉えているかを把握し、今求められる能力や資質について考察する際の手がかりとすることができました。以上の研究を踏まえ、児童生徒の発達段階に応じた「豊かな心を基盤とした生きる力」をはぐくむための具体的な活動を、小学校・中学校・高等学校の各部会ごとに追求し、次年度の実践的な研究のための基礎固めを行うことができました。

(2) 各部会の研究の成果

ア 小学校

調査結果を踏まえ、児童の現状を把握することができ、生きる力をはぐくむ総合的な学習の在り方の必要性がわかり、総合的な学習の在り方の研究を進めることができた。

イ 中学校

人間関係が希薄になり、自尊感情や自己存在感が乏しくなっている状況を踏まえ、豊かな自己表現活動を通して自己理解・他者理解を深め、共生の意識を高めるための活動の在り方についての考察を深めることができた。

ウ 高等学校

進路に関するアンケートの結果から、人間としての在り方生き方にかかわる資質・能力を育成する機会・場として体験的な活動の必要性が明らかになり、体験的な学習を通して、生きる力をはぐくむための実践の在り方についての研究を進めることができた。

2 今後に向けた課題

小学校、中学校、高等学校の研究で焦点を当てた、総合的な学習、表現活動、進路指導に関しては、すでに多くの先行研究や実践例があります。2年次の研究に関しては、それらの事例に学びながら、「豊かな心を基盤とした生きる力」の育成に向けての全体計画や指導計画、指導事例等を作成します。さらに、研究協力校等と連携しながら実践的研究を行い、その結果を検証し、「豊かな心を基盤とした生きる力」をはぐくむための学校教育の在り方についての提言を行いたいと考えます。